

## 【全体概要】

平成28年に系統造成が完了した大ヨークシャ種の系統豚「アイリスW3」の生産現場における能力を確認し、県系統豚の活用の普及推進を図るとともに、生産される豚肉のブランド化を図る。

## 新品種・新技術等の概要

### ○アイリスW3

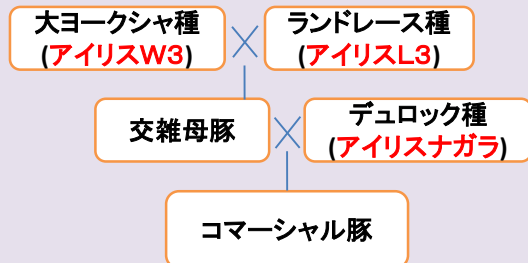
大ヨークシャ種の系統豚として、愛知県農業総合試験場畜産研究部で造成。平成28年に完成し、畜産総合センターへ移管、平成29年から民間への譲渡が始まった。



アイリスW3

### ○愛知県の系統豚

愛知県は豚の主要3品種（ランドレース種、大ヨークシャー種、デュロック種）の系統豚を自県で造成・供給している。3品種を造成しているのは本県のみで、県の強味となっている。

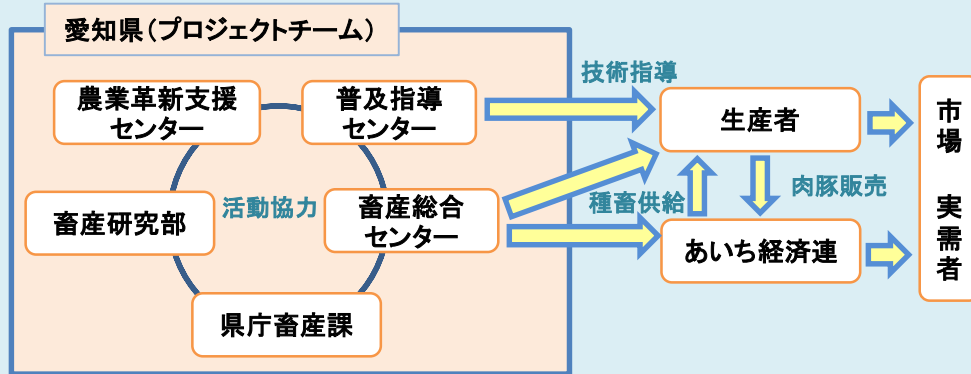


( )内は県有系統名

## 主な取組内容

- アイリスW3母豚及び交雑母豚の能力調査
- アイリスW3を含む系統豚の飼養管理マニュアルの作成
- 系統造成方針の検討材料として、系統豚利用農家の実態、意向等を調査
- 系統豚由来豚肉のおいしさ評価
- 地域ブランド豚肉のPR取組み事例調査

## 実施体制図



## 実績と今後の展開

- 総産子数の調査結果は、アイリスW3母豚で11.0頭、交雑母豚で10.4頭と、試験研究機関の成績と比較して遜色ないことが明らかとなった。
- 系統豚及び系統豚交雑種の飼養管理マニュアルは、畜産総合センター及び農業総合試験場のHPIに掲載された。
- 平成30年2月以降に本県でCSFが発生したこともあり、系統豚の譲渡頭数は激減した。
- 農業総合試験場ではCSFにより中断した系統豚造成に向けて再始動した。また、畜産総合センターで系統豚交雑母豚の供給を開始しており、CSFにより減少した系統豚のシェア回復のため、本事業で得られた知見を活用していく。